2026年11月16日

各　位

会社名　株式会社カーリット
（URL：https://www.carlit.co.jp）
代表者名　代表取締役兼社長執行役員　金子 洋文
（コード番号 4275　東証プライム）
問合せ先　経営企画部 広報・IR推進室長　山本 孟
（ＴＥＬ：０３-６８９３-７０６０）

2027年３月期第２四半期（中間期）決算説明会資料のお知らせ

当社は、2026年11月11日に公表いたしました2027年３月期第２四半期（中間期）決算短信［日本基準］（連結）における決算説明会資料について、別紙のとおりお知らせいたします。

［別紙概要］

１．カーリットの現在地について

２．2027年３月期第２四半期 決算概要

３．宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

なお、決算説明会の動画は後日YouTube等にてオンデマンド配信する予定です。

以　上



2027年３月期第２四半期（中間期） 決算説明会

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

株式会社カーリット

CODE : 4275

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

目次

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

- カーリットの現在地について

  代表取締役兼社長執行役員　金子 洋文

- 2027年３月期第２四半期 決算概要

  取締役兼常務執行役員　　岡本 英夫

- 宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

  代表取締役兼社長執行役員　金子 洋文

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

カーリットの現在地について

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

カーリットの過去と現在

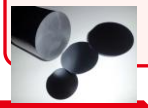
信頼と限りなき挑戦
Carlit











第一次世界大戦の終結	第二次世界大戦	高度経済成長期	バブル経済と崩壊	ITバブル期	リーマンショック
1918	1939	1945	1955	1973	1990	2000	2008	2030
カーリット爆薬の特許取得、製造販売開始		ロケット固体推進薬原料として過塩素酸アンモニウムの製造・販売開始	自動車用緊急保安炎筒の製造・販売開始	電子材料事業のスタート	シリコンウェーハ事業、ボトリング事業のスタート		M&Aにより4社以上を買収。ホールディングス体制を整え持株会社「カーリット」へ	

黎明期

塩素酸ナトリウムの派生製品や火薬・爆薬で、大戦前後の経済成長を支える

成長期

過塩素酸アンモニウムや自動車用発炎筒、電極や電解装置など、事業領域や販売市場が広がっていく

拡大期①

無機化学・火薬関連製品から、有機合成による電子材料分野、シリコンウェーハ事業、ボトリング事業を新規にスタート。事業規模と売上を拡大していく

拡大期②

さらなる事業規模と売上高の拡大を狙い、積極的なM&Aを実施。金属加工やエンジニアリングサービス関連の会社を買収し、4セグメント経営に転換

祖業「カーリット爆薬」から派生した価値創造

祖業にこだわらず、さまざまな資本を活かした価値創造

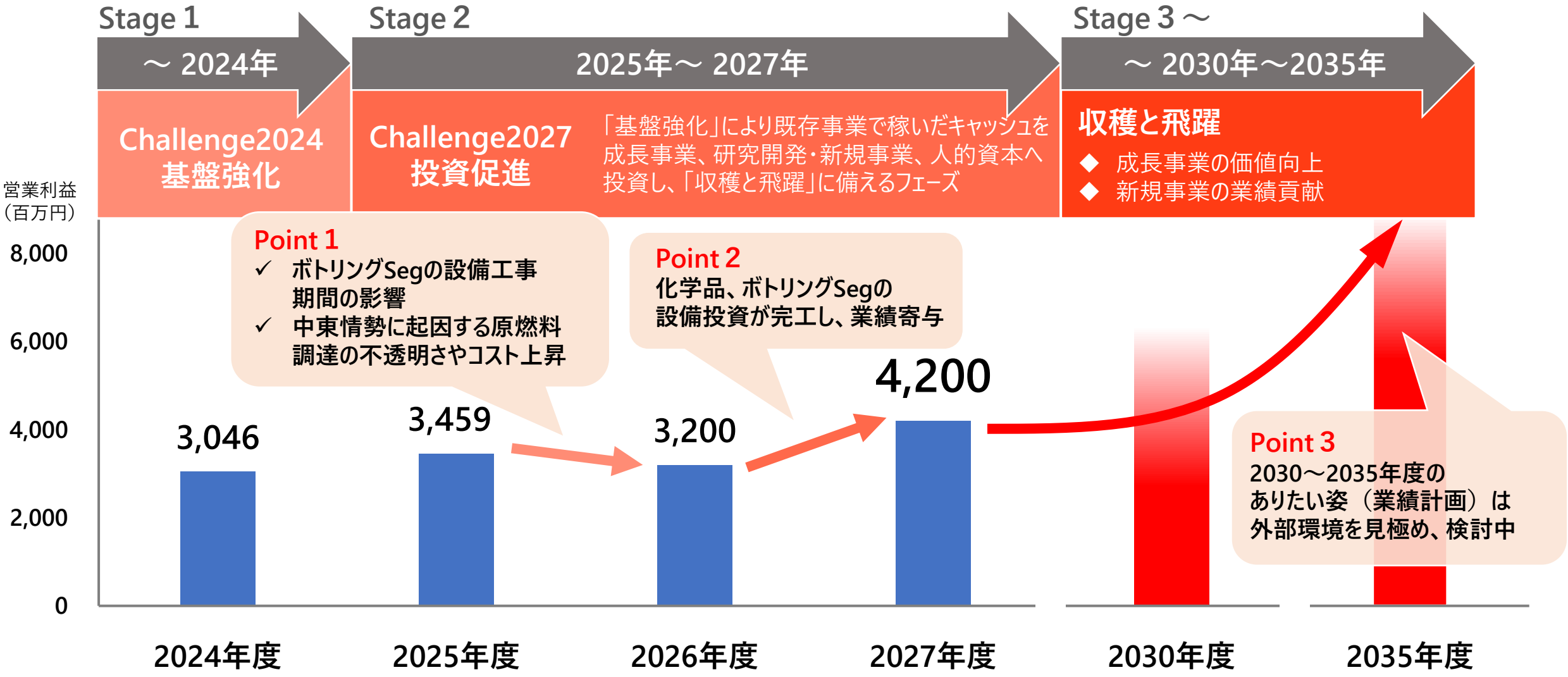
現在は、固体推進薬がテーマ

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

成長ビジョンと進捗（5月発表資料）

信頼と限りなき挑戦 Carlit

◆ 2035年に向けた成長ビジョンと中期経営計画Challenge2027の進捗



©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

2027年３月期第２四半期 決算概要

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

連結経営成績

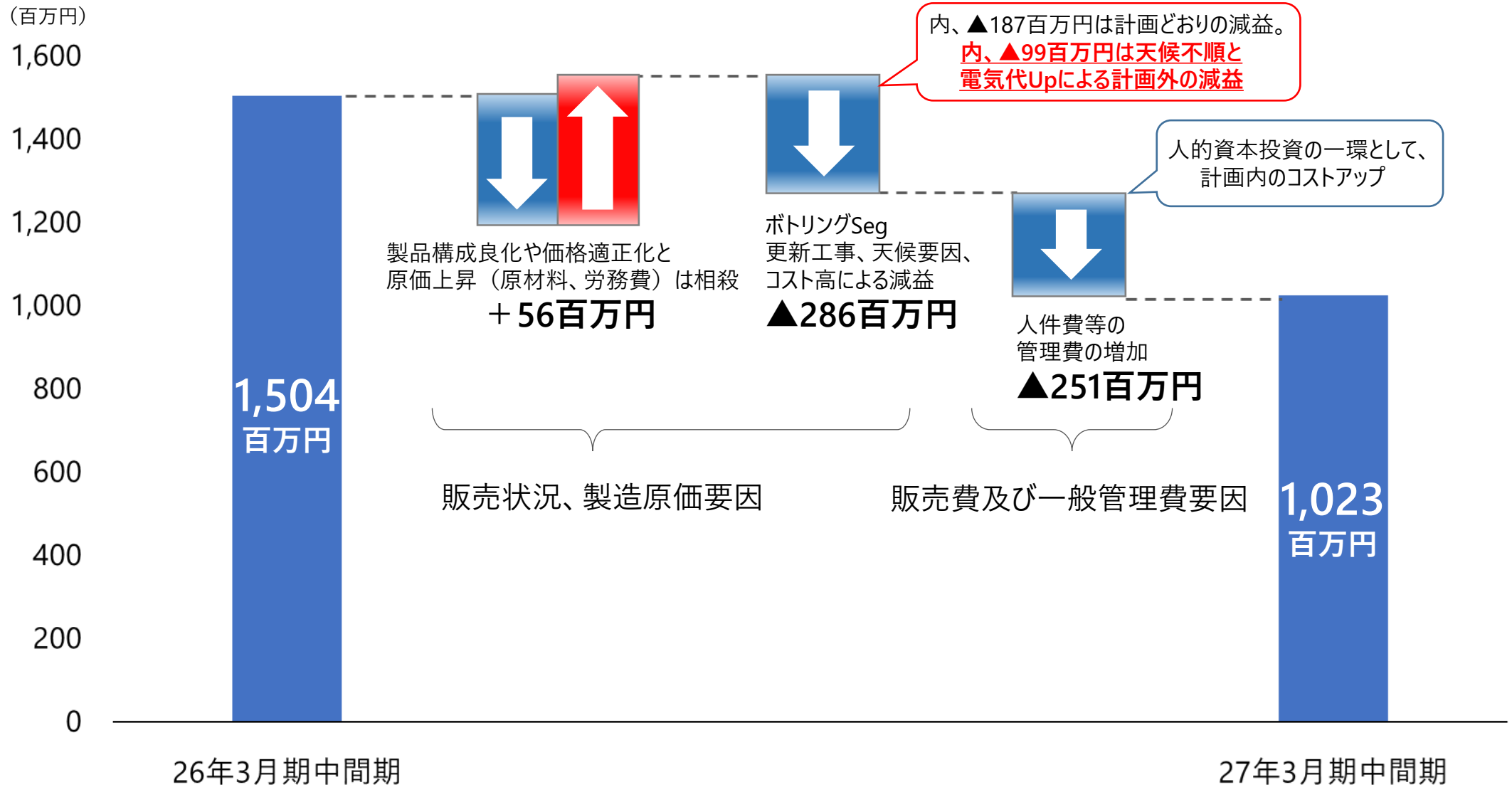
信頼と限りなき挑戦 Carlit

（百万円）	2026年3月期中間期 実　績	**2027年3月期中間期 実　績**	増減額	増減率
売上高	**17,763**	**17,452**	**▲311**	**▲1.8%**
売上原価	13,304	13,222	▲81	▲0.6%
売上総利益	**4,459**	**4,229**	**▲230**	**▲5.2%**
販売費および一般管理費	2,954	3,205	+250	+8.5%
営業利益	**1,504**	**1,023**	**▲480**	**▲32.0%**
経常利益	**1,657**	**1,145**	**▲512**	**▲30.9%**
親会社株主に帰属する純利益	**1,149**	**1,566**	**+417**	**+36.3%**
期末配当予想（円/株）	42	42		

特別利益	**投資有価証券売却益**	**1,140百万円**
	関係会社株式売却益	88百万円
特別損失	固定資産除却損	16百万円

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

連結営業利益 対前年増減内訳



©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

セグメント別 決算概要

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

（百万円）	中間期売上高			中間期営業利益		
	実績	対前期比増減率	対通期予想進捗率	実績	対前期比増減率	対通期予想進捗率
化学品	11,049	＋3.5%	46.0%	651	▲24.8%	31.0%
ボトリング	1,465	▲31.0%	40.7%	▲359	（▲286） 対前期比数値	（▲99） 対計画比数値
金属加工	3,738	▲0.9%	50.5%	335	▲10.1%	54.0%
エンジニアリングS	1,856	▲27.4%	32.0%	334	▲27.2%	51.4%
報告事業部門計	18,110	▲5.3%	44.4%	963	▲40.8%	28.6%
連結合計	17,452	▲1.8%	46.9%	1,023	▲32.0%	32.0%

化学品Segは計画どおり増収。
生産コストについては販売で相殺できているものの、販管費の増加を吸収できていない状況。適正価格交渉等の取り組みによる改善を継続。

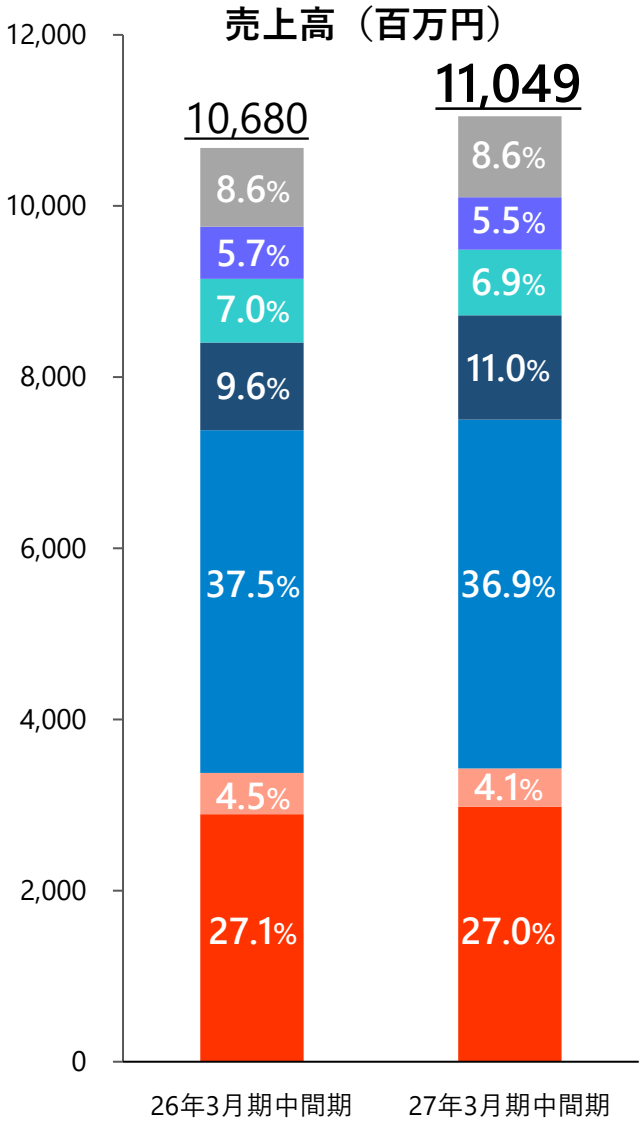
4月~12月にかけて更新工事を実施中。4月の定修コストに加え、製造ラインが１ライン停止する影響により減収減益。
計画外の要因として、日照不足や降雨が続き飲料需要が低調。エネルギーコストの増加が重なり、計画対比で営利99百万円の未達。

金属加工Seg、エンジニアリングSSegは概ね計画どおり進行。
1Qと比べ減速するも、販売動向は下期以降も堅調と想定。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

化学品セグメント 分野別（サブセグメント）の状況

信頼と限りなき挑戦 Carlit



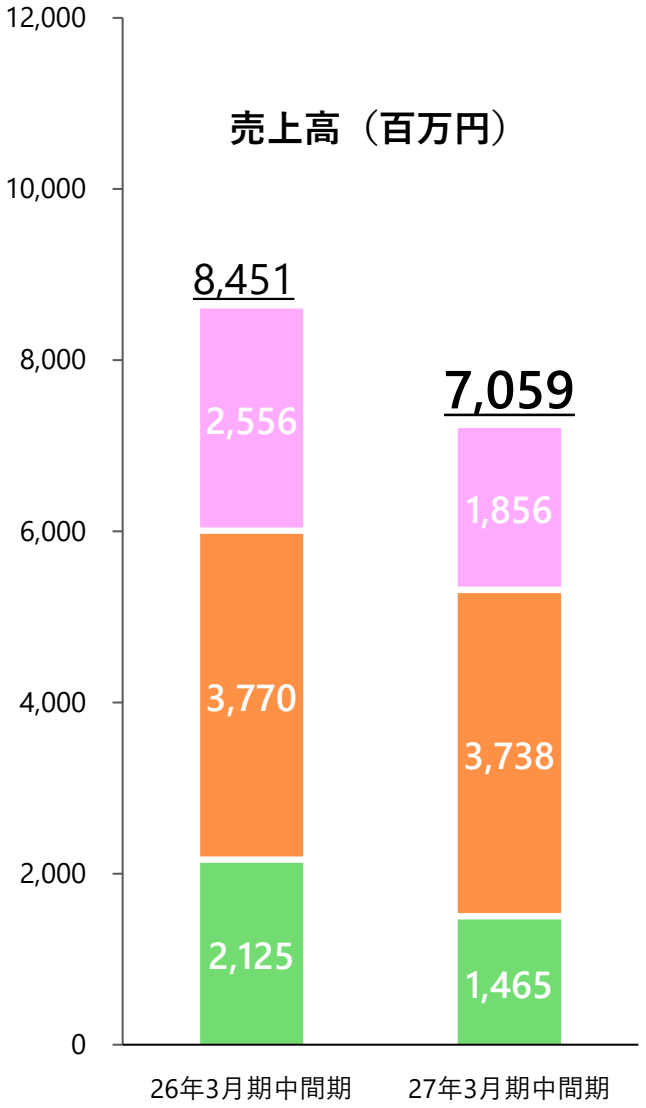
分野（サブセグメント）	売上高 増減率（前年同期比）	サブセグメント別の状況
化薬分野	＋3%	自動車用発炎筒　：自動車工場と販売店（車検）向けのどちらも販売が堅調に推移し増収。 しかし、原材料費や人件費などの生産コストの増加により減益。 高速道路用発炎筒：前年度の適正価格反映の効果に加え、事故防止や交通整理に関する需要が堅調に推移したことから、増収増益。
受託評価分野	▲7%	危険性評価試験：化学品類の危険性評価試験や大型の特別試験の受注を確保し、増収増益。 電池試験　　：EV需要の減速および一部顧客の調整の影響を受け、試験受注が減少。 加えて、設備投資の償却コストの増加により、減収減益。
化成品分野	＋2%	塩素酸ナトリウム　　：顧客の紙パルプ工場の被災により一部地域で需要が減少。 他地域向けの販売を推進するも、影響を補い切れず減収減益。 過塩素酸アンモニウム：宇宙開発用途および防衛用途需要の両方が堅調に推移。 計画どおりの販売推移となり、増収増益。
電子材料分野	＋19%	中東情勢の緊迫化にともなう石化由来原料の目詰まりにより販売損失が発生。 一方、ハイエンドサーバー向け高付加価値コンデンサ材料の販売が引き続き好調であったことに加え、電力変換機用コンデンサ材料の海外需要等が伸長したことから、増収増益。
セラミック材料分野	＋3%	金属加工用途の研削砥粒の需要が堅調に推移し増収。 原材料および生産コストの価格反映は進んでいる一方、管理コストの増加により減益。
シリコンウェーハ分野	±0%	一部顧客の需要が回復傾向にあり、第２四半期の販売は好調に推移。その結果、第１四半期の販売減少分を補い、売上高は前期比横ばい。 また、生産体制の見直しや販売価格の適正化により売上総利益が改善し、増益。

（不動産・その他）

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

基盤領域セグメントの状況

信頼と限りなき挑戦 Carlit



セグメント	売上高 増減率（前年同期比）	セグメント別の状況
ボトリングセグメント	▲31%	保有する３つの飲料製造ラインのうち、「ホットパックライン」の更新工事を実施中。製造ラインの１つが停止しており、減収減益。更新工事期間は第１四半期から第３四半期までとなり、ライン更新による業績影響は計画どおりに推移。 一方、8月~9月は、台風等による低温・日照不足・降雨が続き飲料需要が低調。稼働可能な製造ラインの受注・生産も計画を下回る状況。エネルギーコスト高も計画を超えており、大きく減益。
金属加工セグメント	▲1%	耐熱炉内用金物　：堅調な交換需要を背景に、いずれも計画を上回って推移。 一方、前年同期の大型工事案件の反動の影響が大きく、減収減益。 各種金属スプリングおよびプレス品：建設機械向けの金属プレス品（座金など）の需要が増えている一方、自動車向けばね座金の販売が減少傾向となり、減収減益。
エンジニアリングサービスセグメント	▲27%	建築・設備工事　：グループ内工事案件および外部受注案件がどちらも減少し、減収減益。 2026年6月末の連結子会社売却の影響を受けているが、連結業績としては影響は軽微。 塗料販売・塗装業務：中東情勢の緊迫化に起因し塗料価格が上昇する一方、塗料製品の安定供給に努め販売が増加。 加えて、塗装業務も新規案件を取り込むことにより、増収増益。 構造設計　：下水道施設の耐震診断や補強設計を中心に需要が堅調に推移し、売上高横ばい、増益。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

計画対比の状況

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

Carlit

◆ 通期業績予想は期初予想を維持。2Q営業利益は予想を下回ったが、下半期で改善を図る。

	（百万円）	2027年3月期 期初業績予想	2027年3月期 2Q時点 業績進捗	増 減 額	増 減 率
売 上 高	第 2 四半期	17,300	17,452	＋152	＋0.9%
	通　　期	37,200	37,200	-	-
営業利益	第 2 四半期	1,100	1,023	▲77	▲7%
	通　　期	3,200	3,200	-	-
経常利益	第 2 四半期	1,200	1,145	▲55	▲4.6%
	通　　期	3,300	3,300	-	-
純 利 益	第 2 四半期	1,400	1,566	＋166	＋11.9%
	通　　期	3,000	3,000	-	-
期末配当	1 株 当 た り	42円	42円	±0	-

計画比の主な減益要因は、ボトリングSegにおける天候不順と電気代Up。▲99百万円の影響

・・・ 注）次の①②の影響により、期初から前期比減益となる予想としています。

① ボトリングセグメントのPET飲料製造ラインの更新工事により、製造ラインが１ライン停止している影響

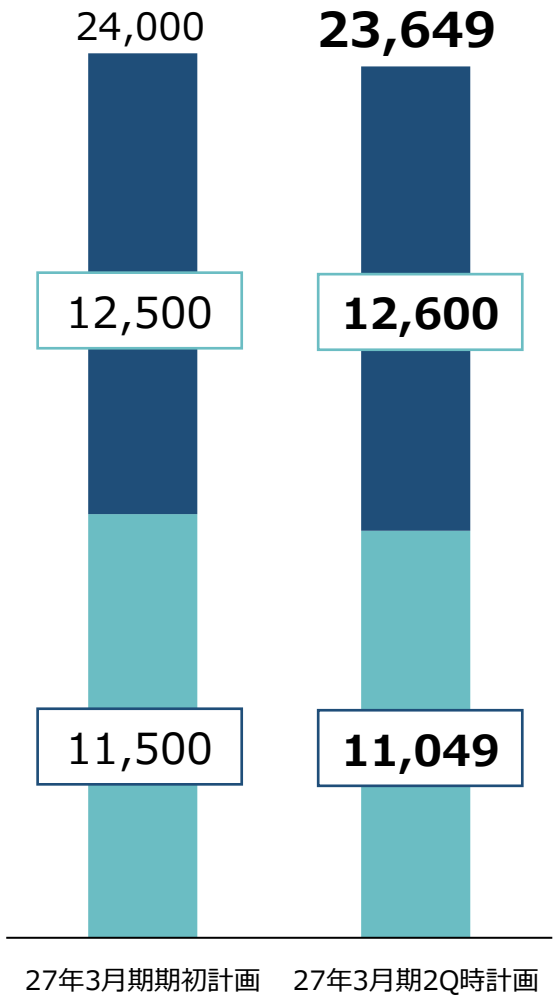
② 国際情勢の緊迫化にともなう化学品セグメントの原燃料高騰

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

下期見通し　＜化学品セグメント＞

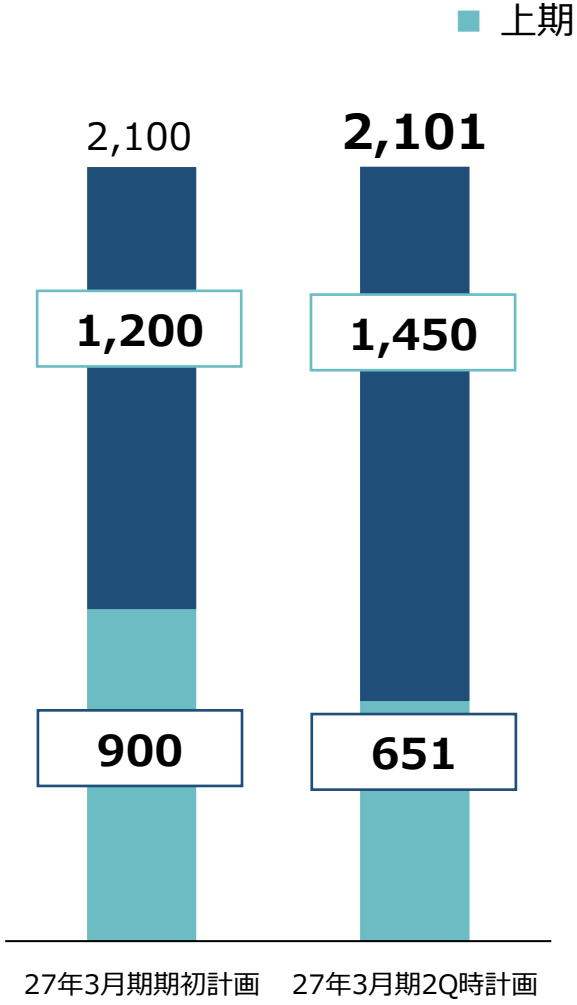
信頼と限りなき挑戦 Carlit

【売上高】



【営業利益】

（単位：百万円）



【Point】

販売面は計画どおりに進捗。利益目標の達成に向けては、「① 管理コスト(人件費)の吸収」、「② 電池試験の復調」「③ 電子材料の好調継続」の３つが焦点。

【分野別コメント】

化薬分野（発炎筒類、爆薬、煙火原料）

適正価格の反映は一巡。販売環境も堅調。変動要因はコスト面のみ。

受託評価分野（危険性評価試験、電池試験）

減価償却コストの負担は下期も継続。

EV関連ではない新規案件の獲得による試験所の稼働アップができるか否か。

化成品分野（塩素酸ナトリウム、過塩素酸アンモニウム等）

過塩素酸アンモニウムは期初需要計画のとおりに伸長する見通し。

塩素酸ナトリウムや他の化学製品の需要変動の影響がどれくらいになるかがポイント。

電子材料分野（導電性高分子、イオン液体等）

ハイエンドサーバー向け、自動車向けともに需要環境が継続するか否かがポイント。

セラミック材料分野（研削砥粒）

需要環境は底堅く、変動要因は小さい。

シリコンウェーハ分野（小口径シリコンウェーハ）

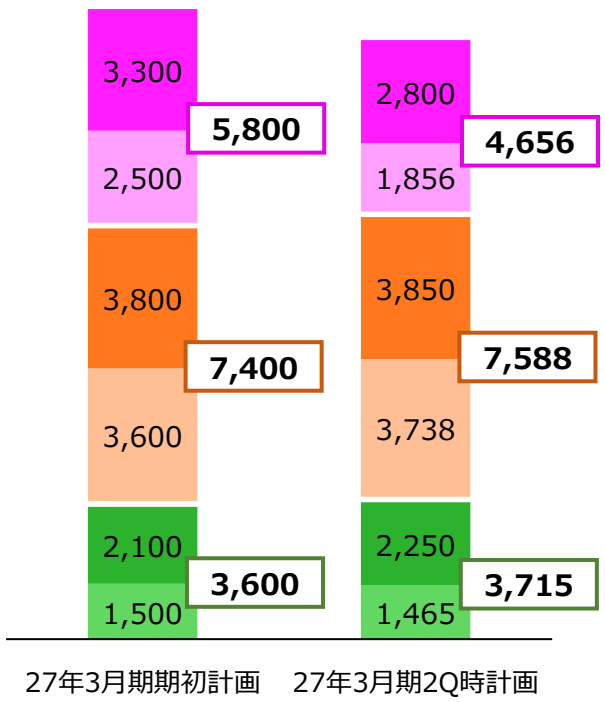
工場体制等、利益体質は改善済み。ウェーハ需要の高まりにあわせた小口径市場の盛り上がり次第。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

下期見通し　＜基盤領域セグメント＞

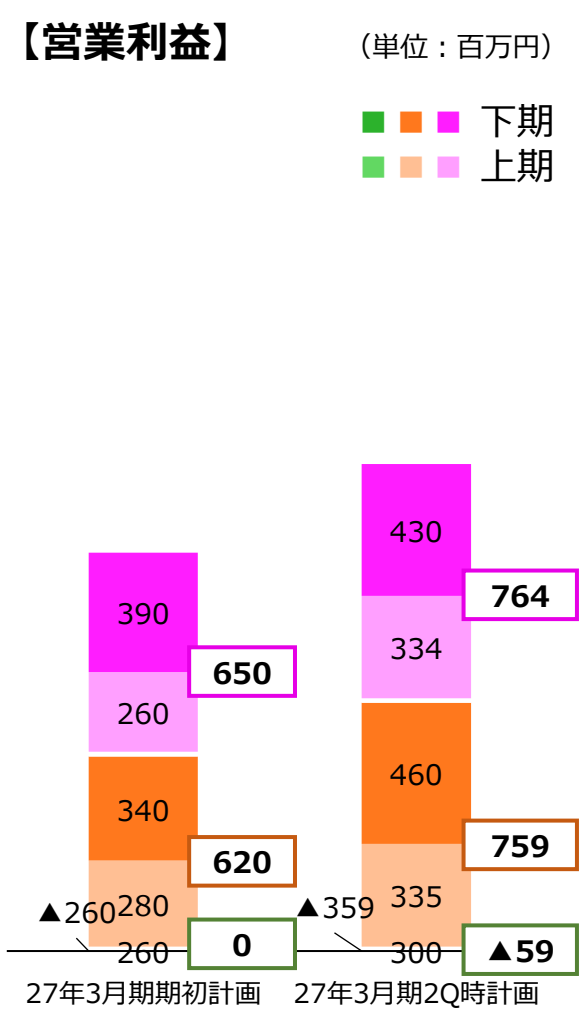
信頼と限りなき挑戦

【売上高】



【営業利益】

（単位：百万円）



【Point】

売上高はエンジSseg 建築関連の影響で減少。
利益目標に対しては、ボトリングSegの赤字見通しを他2セグメントでカバー。
いずれも販売市場は底堅く、上振れ下振れの変動は小さい想定。

【分野別コメント】

■ ボトリングセグメント

PET飲料製造ラインの更新工事は予定どおり12月まで継続し、1月から稼働開始。
2Qはそれに加え、飲料需要の低迷やエネルギーコストアップの影響を受けた。
下期も挽回に向けるが、生産能力の限度もあり、▲59百万円の赤字見通しに変更。
計画どおり、来期（2028年3月期）以降は業績回復する想定。

■ 金属加工セグメント

耐熱炉内用金物分野、金属スプリング・プレス品分野の双方とも、引き続き堅調に推移。
顧客需要の大きな変動はなく、期初対比増益と計画。

■ エンジニアリングサービスセグメント

建築・設備分野については引き続き販売環境が厳しく、売上減少の要因となる想定。
塗料・塗装分野、構造設計分野については引き続き堅調に推移し、期初対比増益と計画。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙防衛事業の将来構想（5月発表資料）

信頼と限りなき挑戦 Carlit

◆ 安定した過塩素酸アンモニウム（AP）供給基盤を核に、
固体推進薬の量産化と周辺領域拡張を進め、2030年代の中核成長事業へ育成

2025-2027

外部環境の変化

- 防衛力整備計画
- 防衛装備移転三原則の運用指針改正（5類型の撤廃）
- 宇宙ビジネスの拡大

基盤確立

- AP増産投資の第一段階完遂、2027年度全面操業へ
  → 2023年度比２～３倍の供給能力体制を構築
- **宇宙開発・防衛用途向けの戦略的事業開発に着手**
  → さらなる設備・新工場投資、事業開発用地の取得など

2028-2030

量産立ち上げ

- 防衛用固体推進薬新工場を稼働し、本格量産へ移行
- 防衛用途向け量産開始、宇宙用途は本格市場参入へ展開
- 搭載機種ラインナップ拡充、採用機種拡大を推進

2030-2035

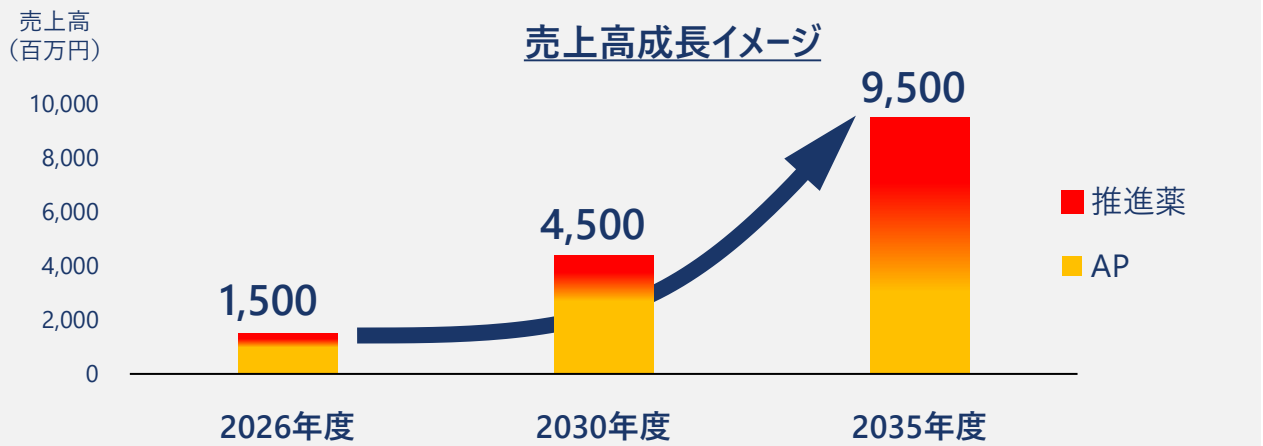
領域拡張・高収益化

- オリジナル推進薬の開発
- 新規防衛アイテム、関連部材・委託業務へ拡張
- 原料供給から一貫価値提供事業へ進化

Memo：カーリットの優位性

- 一貫生産体制による安定したAP供給基盤
- 長年培った火薬類と危険物の取扱ノウハウ（火薬類や毒劇物への法令遵守製造設備）
- 原料から推進薬、周辺領域までを一貫して取り扱うことによる高い事業拡張性

売上高成長イメージ



©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

過塩素酸アンモニウム生産の現状と今後

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

過塩素酸アンモニウム(ＡＰ)の製造プロセスと完成設備の様子

信頼と限りなき挑戦 Carlit

【製造プロセス】

1）電解工程

塩素酸ナトリウムを電気分解、電解酸化する

強み：① 自社で水力発電所を保有（広桃発電所）
② 電解用の電極を自社で製造

塩素酸ナトリウム
→過塩素酸ナトリウム

2）複分解･晶出工程

過塩素酸ナトリウムから過塩素酸アンモニウムを生成、晶出する

強み：粒形、粒度の精密なコントロール

過塩素酸ナトリウム
→過塩素酸アンモニウム

3）乾燥工程

晶出させた過塩素酸アンモニウムを乾燥させる

強み：結晶を破砕しない乾燥工程

4）後処理工程

乾燥後の過塩素酸アンモニウムをふるい分け、粒度等の品質を調整

強み：粒形、粒度の精密なコントロール

過塩素酸アンモニウム(ＡＰ)製品が完成



塩素酸ナトリウムを電解酸化する電解槽を増設。
過塩素酸ナトリウムの生産能力を増強。

電解工程増設状況(Step3 工事中)



晶出させた過塩素酸アンモニウムを乾燥する乾燥機を増設。

乾燥工程増設状況(Step2 完成後）

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

ＡＰ投資計画の進捗と今後

信 頼 と 限 り な き 挑 戦
Carlit

設備分類	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度
電解工程設備	増産投資（3期工事） 金額：約15億円		3 stepにわたる増産投資が完工。 最大生産能力('23年比)の**2~3倍。**				
複分解･晶出工程設備					**第２複分解工場 新設投資** **金額：30億円～検討中** 設計期間 / 工事期間		
乾燥工程設備	増産投資（2期工事） 金額：約5億円				NEW!! 現在、投資内容を検証中。 2028年度までに設計。2029年度から工事開始予定。 2031年度中の操業開始を目指す		
後処理工程設備	増産投資（2期工事） 金額：約5億円		**老朽化対策投資** **金額：約20~25億円**		混合･粉砕工場の老朽化対策 2029年度下期から操業開始予定		



過塩素酸アンモニウム
製造中外観写真

Memo

- ３StepにわたるAPの増産投資は2027年度から設備稼働を開始。
- さらなる安定供給体制の確立を目的とし、混合･粉砕工場の老朽化対策工事をスタート。
- さらに、過塩素酸ナトリウムを過塩素酸アンモニウムにする「複分解」工程の第２工場の新設を検討中。設備や工事内容が決定し次第、設計に着手する想定。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

宇宙・防衛固体推進薬の現状と今後

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

コンポジット固体推進薬について

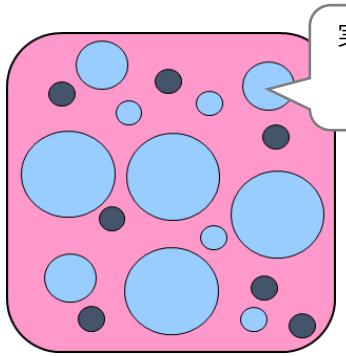
信頼と限りなき挑戦 Carlit

◆ **コンポジット固体推進薬**： カーリットが製造する過塩素酸アンモニウム（AP）を主成分とする固体推進薬

バインダ：燃焼によりガスを発生して燃料となる樹脂
（成分構成 約10%）（BD）

酸化剤：燃焼に必要な酸素を供給するAP
（成分構成 約70%）（AP）

金属燃料：燃焼温度を向上させるアルミニウム粒子
（成分構成 約20%）（Al）



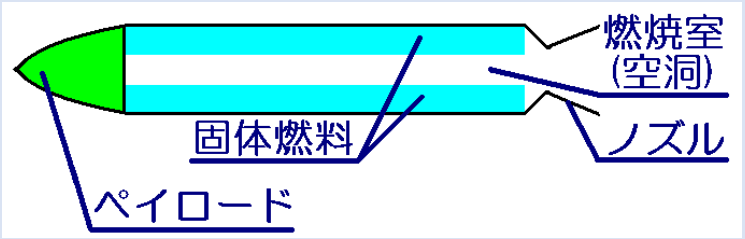
コンポジット推進薬 模式図


コンポジット推進薬
試験品外観

火薬類取締法で規定される火薬類に該当

→ 技術、法令、設備等の製造ハードルが高い

◆ **固体燃料ロケット**： コンポジット固体推進薬をモーターケースに充填し、その燃焼により得た推力で飛翔するロケット

構造	メリット	デメリット
	• 構造が簡素で信頼性が高く安価 • 小型のものにおいて構造効率が良い • **即応性に優れる** **（何かあったらすぐに打てる** **→誘導弾に適している）**	• 推力調整が困難 • 再点火不可 • 大型のものにおいて構造効率が悪い
実用例：H3ロケット固体ロケットブースタ、イプシロンロケット、カイロスロケット、観測ロケット、防衛用ロケット（誘導弾）		


固体推進薬の燃焼試験の様子

参考・引用：NASA HP、JAXA・宇宙情報センター HP、「トコトンやさしい宇宙ロケットの本」日刊工業新聞社　他

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙ロケット用固体推進薬の市場環境

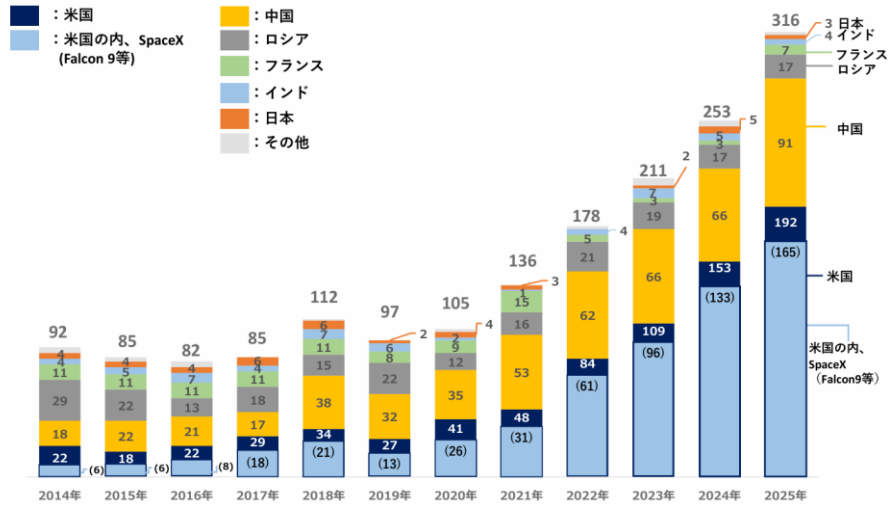
宇宙ロケット、人工衛星輸送の現状

1. 2025年に打ち上げられたロケット数は過去最高を更新
   2024年：253回　→　2025年：316回
2. 2025年に軌道上に打ち上げられた人工衛星等の機数は4,517機。
   過去10年間で約20倍に増加。増加の中心を占めるのは米国であり、
   そのうちStarlinkは2019年～2025年の7年間で10,677機を打上げ。
3. 国内外で衛星コンステレーション構築計画が進んでおり、
   衛星打上げニーズは今後も増加するものと見込まれる。
4. 国内ロケットの国際的な競争力を確保し、国内需要に対応するほか、
   海外需要を獲得することも重要。

2030年頃

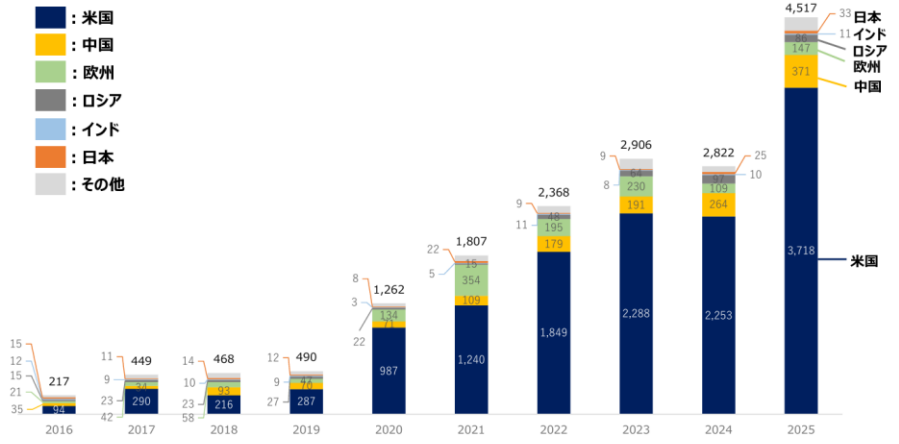
国内衛星の必要ロケット打ち上げ数
年間少なくとも30回程度
＋
海外衛星の国内打ち上げ需要
年間＋α回

ロケット打ち上げ数の推移



内閣府宇宙開発戦略推進事務局の調べ（軌道投入用ロケットの打上げ成功のみカウント）

人工衛星等の打ち上げ数の推移



JAXA情報及び報道発表資料に基づき内閣府が作成。打上げ数の中に打上げ失敗と軌道投入失敗は含んでいない。

上記いずれも「宇宙政策基礎資料　内閣府宇宙開発戦略推進事務局 2026年9月」より引用

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙ロケット用固体推進薬の開発状況

信頼と限りなき挑戦 Carlit

国内衛星の必要ロケット打ち上げ数

年間少なくとも30回程度

＋

海外衛星の国内打ち上げ需要

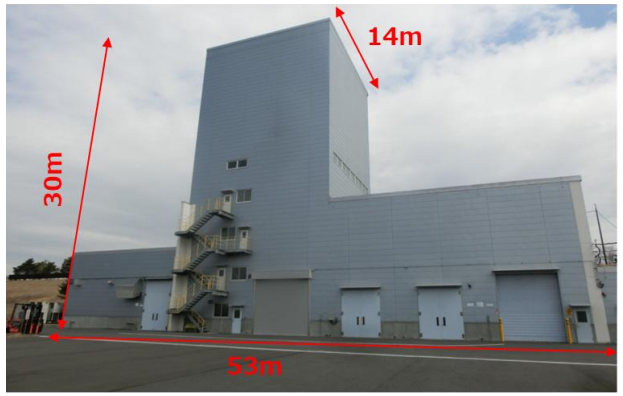
年間＋α回

- 当社では、スペースワン株式会社「カイロスロケット」の固体燃料モータを製造。
- 2030年にカイロスロケットも年間10回以上の打ち上げを想定しており、それにあわせた**年間10本分以上の固体推進薬の製造能力の実現を検討中。** NEW!!

  現在試験製造を行っているパイロットプラントに加え、**新たな工場施設の拡充や量産体制構築（工場用地取得、製造設備、検査設備、倉庫施設等）について試算や検討を進めている。** NEW!!
- 民間ロケットに加え、官需ロケットの開発検討も進めていく。



赤城工場 全体図



コンポジット固体推進薬製造パイロットプラント

最大製造数量：15,000kg

所有設備　：大型ミキサ、大型真空槽（φ3.5m×L10m）、30t天井クレーン

製造実績　：宇宙・防衛用ロケットに搭載する固体推進薬をフルサイズで製造。

現在もフルサイズ品の製造は可能だが、年間10本以上の量産は不可能。

→ **2030年に向け、新たな製造プラントが必要**

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

防衛ロケット用固体推進薬の市場環境

防衛ロケットの現状

1. 防衛省から令和9年度予算の概算要求が発表。
   約8兆8千億円以上となり、令和8年度当初予算を上回る水準。

2. 重視される３本柱として、①「新しい戦い方」への対応、②持続的対応能力の強化、③防衛力の基盤強化が打ち出された。

3. 防衛ロケットが使われる「スタンド・オフ」や「統合防空ミサイル防衛」については、『①「新しい戦い方」への対応』に記載され、強化を予定。
   また『②持続的な対応能力』にも防衛ロケットと関連する記載がある。

防衛予算・防衛費の増額にともない、
防衛用固体推進薬の市場も拡大していく見通し

- 現在、赤城工場にて防衛用推進薬製造設備・倉庫の建設工事中。
  （開示済み情報）
- 追加の設備投資は決定していないが、複数案件の開発に着手中。
  搭載機種ラインナップの拡充や新規防衛アイテム、関連部材など、さまざまな価値提供ができる事業を目指して検討を進めている。

令和9年度概算要求のポイントから抜粋





「防衛力の変革に向けた予算 令和9年度概算要求の概要 防衛省」より引用

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

防衛ロケット用固体推進薬の工事進捗

信頼と限りなき挑戦 Carlit

防衛用推進薬製造設備の投資進捗

1. 2028年度完工・製造開始に向け、設備投資をスタート。
   赤城工場敷地内に、防衛用固体推進薬を製造する新工場を建設。

   → **完工が2027年度中に前倒しとなる予定。** NEW!!

2. 2025年12月現在、土地の造成作業や設備設計などに着手。

   → 2026年11月現在、土地造成はほぼ完了。工場建屋の建設工事が進捗中。

3. 設備投資の完成にあわせ、投資費用に関連する収益を計上予定。

   → **予定どおり、投資費用全額分の収益を計上予定。** NEW!!
   完工が2027年度に前倒しになったことにともない、
   P/Lへの収益計上が前倒しになる。（検収時期等について調整中）

【 工場概要 】
場　　所：㈱カーリット赤城工場内
製造対象：防衛用関連製品
製造開始：2028年度から
新設設備：製造設備ならびに建屋、倉庫施設
金　　額：74億円（初度費にて充当）



赤城工場正門

固体推進薬は火薬類取締法で規定される「火薬類」に該当。
発炎筒や爆薬の製造を行っている赤城工場にて開発、設備投資を進めている。
（設備工事外観については秘密保持の観点から掲載不可）





固体推進薬保管火薬庫

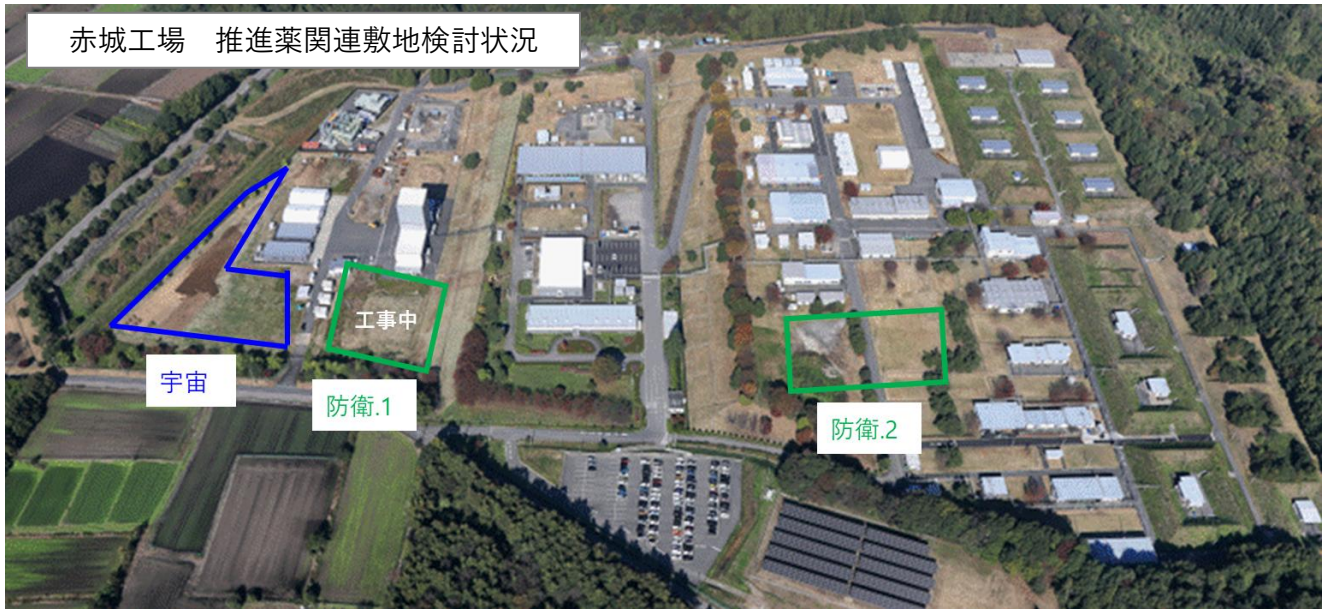
宇宙・防衛ロケット用の固体推進薬を保管する火薬庫。（2019年に完成し、既に運用中）
他の火薬庫と比べ、非常に大型であり、大型トラックへの積み込みも可能なよう広い面積が確保されている。

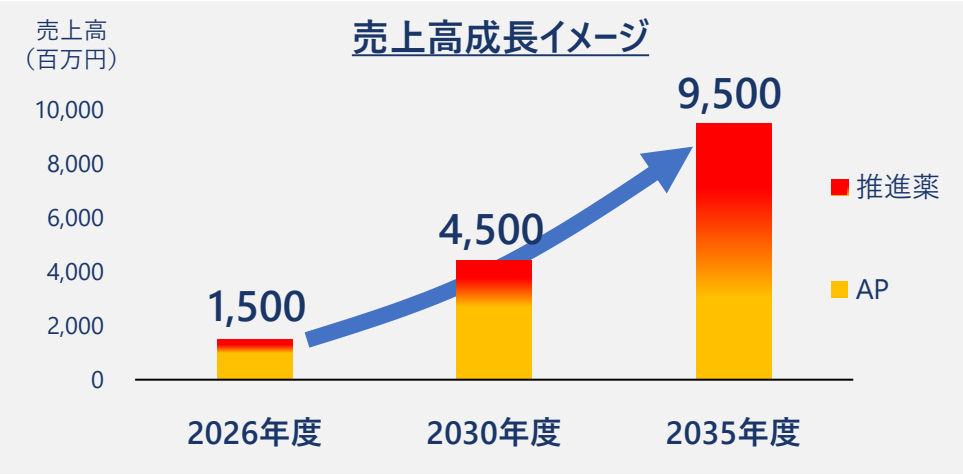
©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

宇宙・防衛固体推進薬 事業開発の取り組み

信頼と限りなき挑戦 Carlit

	AP（群馬工場にて生産）	固体推進薬（赤城工場にて生産）
宇宙用ロケット	• 増強後も安定供給に向けた設備投資を継続。 • 国内オンリーワンメーカーとして安定供給を確保。国内需要に応えていく。 • 自社の固体推進薬向けの原料としても生産していく。	• カイロスロケット向け推進薬の量産（10本打ち上げ体制）に向けた新設備を検討中。
防衛用ロケット		• 推進薬新工場を建設中。（右写真「防衛.1」） • 別案件に対応できるよう、「防衛.2」についても敷地を確保。（右写真「防衛.2」）





売上高成長イメージは、各案件の具体的な交渉状況や製造実績からシミュレーションの精度を高めつつ、見直しを進める想定。

→ 現時点では2030年、2035年の想定は据え置き。
今後も状況については積極的に開示を進めていく。

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

信 頼 と 限 り な き 挑 戦

株式会社カーリット

無 限 の 可 能 性 を カ タ チ に

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.

本資料に記載されているカーリットグループの業績見通しの将来に関する記述は、当社が現時点において合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は見通しと大きく異なることがあり得ます

尚、業績等に影響を及ぼす可能性がある要因の内、主なものは以下の通りですが、新たな要因が発生する可能性もございます

① 世界の経済状況・社会情勢及び規制や税制等各種法規の動向
② 為替相場
③ 株式相場
④ 製品需給状況及び部材調達環境
⑤ 資金調達環境
⑥ 重要な特許の成立及び実施許諾並びに特許関連の係争等
⑦ 環境に関連する規制や問題
⑧ 製品やサービスの欠陥や瑕疵等
⑨ 訴訟その他の法的手続き
⑩ 急激な技術変化や、新技術を用いた製品の開発、製造及び市場投入時期
⑪ 事業構造改革
⑫ 情報セキュリティ
⑬ 大規模災害
⑭ テロ・戦争、感染症流行等による社会的・政治的混乱
⑮ 当社役員・大株主・関係会社等に関する重要事項説

©Carlit Co., Ltd. All rights reserved.